

ジョイフル城北 スマイル城北



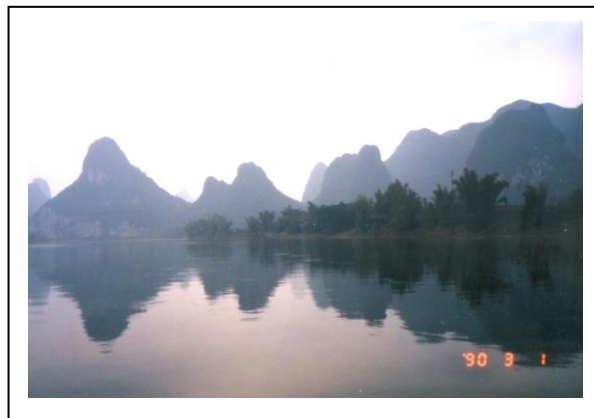
令和6年度 学校だより
ジョイスマ
令和6年 7月16日
熊本市立城北小学校
校長

いよいよ夏休み、どんな体験をしますか？

最近の報道では、対話型人工知能 (AI) 「チャット型 GPT」といった生成 AI の話をよく聞きます。先日、熊本市の全小学校・中学校の校長が集まる会議がありました。開会で中学校の校長先生が代表でご挨拶をされました。するとその校長先生が「この挨拶文は、対話型人工知能 (AI) が、キーワードをもとに作成した挨拶文です。」と話され、再度自分が作成した挨拶を言われました。AI の技術は日々進歩しており、そのすごさを痛感しました。私たちの生活にコンピューターやインターネットなど、ICT 関係の技術は、なくてはならないものになりました。

これも地域の方からうかがった話です。その方が勤務している会社の若手社員が、会社の電話での会話がとても苦手なのだそうです。その理由の一つに ICT 機器の発達があるそうです。私が子どものころは、家庭には固定電話があり、電話に出るまでは誰が電話をかけてきたのかわかりませんでした。電話に出て初めて、親への電話なのか、私の友達からの電話なのかわかりました。現在電話は、スマートフォンなどの個別対応の電話が主流です。スマートフォンでは、誰からかかってきた電話なのか、はっきり分かります。ましてや親へ用事のある方から、そのスマートフォンにかかってくることはありません。このような理由で「誰からかかってきたかわからない電話に若手社員が、なかなか出ないんです。」とおっしゃっていました。

インターネットの発展で私たちは、日本国内はもとより諸外国の様子や出来事が、一瞬で分かるようになりました。加えて様々な映像や機器で疑似体験までできます。しかし、実際に体験や経験したことは、AI とは全く違います。例えば、社会科見学科で3年生はミカン狩りに行きます。そこで3年生は、ミカン畑が段々畑であることを、自分の目で見、その場所を歩いて高低差を感じます。ミカンの実を自分で収穫するとミカンの爽やかな香りも感じることができます。さらにいいミカンを収穫するためにその場所を歩き回ること、ミカン農家の方々の工夫や努力などを実感することができると思います。私も中国に行き実際に漓江下り (桂林) を体験して、その広大さ、荘厳さに心を打たれました。(写真)



このように子どもたちが実際に五感で感じたことは何事にも代えることはできません。やっぱり「百聞は一見に如かず」です。夏休みは日ごろできないことができるチャンスです。家族で何か一緒に体験できる、我が子が子どものときだけの貴重な時間です。その貴重な時間を大切にして、夏休みを過ごしてほしいと思います。

このように子どもたちが実際に五感で感じたことは何事にも代えることはできません。やっぱり「百聞は一見に如かず」です。夏休みは日ごろできないことができるチャンスです。家族で何か一緒に体験できる、我が子が子どものときだけの貴重な時間です。その貴重な時間を大切にして、夏休みを過ごしてほしいと思います。

2学期、元気な子どもたちに会えるのを楽しみにしています。